

Hitotsuyama Racing

Press release - 2011. 1007 - 013

2011年11月30日

Race Report



Photo : Cheung chi wai

ILMC 6hours

(2011. 11. 12-13.)

Macau Grand Prix

Macau GT Cup

(2011. 11. 18-20.)



Photo : Cheung chi wai

Hitotsuyama Racing

Press release - 2011. 1007 - 013

2011年11月30日

Hitotsuyama Racing、ILMC珠海 / マカオGPの2連戦は厳しい戦いに

Hitotsuyama Racingは11月12~13日に中国・珠海で開催された ILMC 6時間レース、並びにその翌週にマカオで開催されたマカオ GP・GT cupに Audi R8 LMSで参戦致しましたが、いずれもマシントラブルによりリタイヤに追い込まれ、厳しい結果とともにシーズンを終了することとなりました。

11月12~13日、中国南部に位置し、香港やマカオに程近い「経済特区」珠海で開催された ILMC 6時間レース。Hitotsuyama Racingはこの6時間レースの GTCクラスに Audi R8 LMSで参戦致しました。

エースドライバーの藤井誠暢が同日開催の JAF GPに参戦することが決定していたため、チームは新たにオランダ人ドライバーのカルロ・バン・ダムをエースとして迎え入れました。カルロ・バン・ダムは2007年にドイツ F3選手権、翌2008年には全日本 F3選手権で連続総合チャンピオンを獲得している非常に優秀なドライバーです。そのカルロ・バン・ダムとともに ILMC珠海を戦うのはスーパー耐久でも Audi R8 LMSのステアリングを握る都筑晶裕とマイケル・キムの2名。

11月12日午後、20分間という短い時間の中で行われた予選では、カルロ・バン・ダムがタイミングを見計らってコースイン。ライバルとなる2台の Audi R8 LMS、そして Mercedes SLS AMGと激しいポールポジション争いを繰り広げます。終盤、カルロ・バン・ダムはポールポジション安泰と思われる1分34秒934をマーク。アタックを終えピットに戻ります。しかし、チェッカーフラッグが振られる中、最後のアタックを行った No.98 Audi R8 LMSのエドアルド・モルタラ選手が1分34秒777をマークし、0.157秒という僅差でポールポジションの座を奪われる形となりました。

しかし、カルロ・バン・ダムがマークしたタイムは、上位クラスとなる GT2マシンの多くを上回っており、Audi R8 LMS、そしてカルロ・バン・ダムの速さを十分に印象付ける予選となりました。

翌11月13日、6時間の決勝レースは11時にスタート。No.98 Audi R8 LMSのエドアルド・モルタラ選手の背後からスタートを決めたカルロ・バン・ダムはオープニングラップからテール・トゥ・ノーズの激しい接近戦を展開。DTMワークスドライバーのエドアルド・モルタラ選手に果敢に襲いかかる姿はサーキットモニターに大きく映し出され、場内を沸かせます。

しかし、スタートからわずか5周目、カルロ・バン・ダムは6速からシフトダウンが不可能になったことを無線で伝え、緊急ピットイン。マシンはガレージ内での修復作業を強いられることに。このギヤボックス・トラブルの解決に約1時間を費やし、優勝争いから脱落することとなりました。

その後、マイケル・キム、都筑晶裕が2スティントずつステアリングを握り、クラストップ No.98 Audi R8 LMSを上回るペースで周回を重ねるものの、最終的に完走扱いとなる総合トップ ×70%の周回数に僅か5周届かず、リタイヤ扱いでレースを終えることとなりました。

Audi R8 LMSでの初の海外レース、そして初の6時間レースとなった今回の ILMC珠海。Hitotsuyama Racingは一発の速さを有することを示した一方で、耐久レースの難しさ、そして国際シリーズのレベルの高さを見せつけられる結果となりました。

Hitotsuyama Racing

Press release - 2011. 1007 - 013

2011年 11月 30日

翌週11月18～20日には、カジノブームに沸くマカオで開催された伝統の市街地レース、マカオ GP・GT cupに参戦致しました。ドライバーは前週も Audi R8 LMSをドライブしている都筑晶裕。ただし、ILMC珠海で使用した「1号車」はマカオ GPには輸送面で間に合わず、チームでは新たにマカオ GP用に「2号車」を用意。万全の体制で挑みました。木曜日に行われた30分間の練習走行は生憎のウェットコンディション。そんな中、ほとんど経験のないマカオ市街地サーキットで、都筑晶裕はいきなり3番手タイムをマーク。チームの士気を高めます。金・土曜日には20分間の予選がそれぞれ1回ずつ行われ、いずれもドライコンディションに恵まれました。金曜日の予選1回目、都筑晶裕は5番手タイムをマーク。土曜日の予選2回目で更に上位進出を狙うものの、赤旗中断によりアタックのタイミングを失い、6番手で予選を終えることとなりました。

日曜日の午前9時からスタート進行が開始されたマカオ GP・GT cup。1周のフォーメーションラップの後、ローリングスタートにより12周のレースはスタート。ポールポジションの Audi エドアルド・モルタラ選手を先頭に2位 Lamborghini澤選手、3位 McLarenダニー・ワッツ選手が続きます。都筑晶裕も背後から迫る Aston Martin藤井選手の追撃を交わし6位のポジションをキープ。その後、都筑晶裕は Porsche、Ferrari、Audi、Aston Martin、Fordといった最新 GT3マシンの競演ともいえる4位争いに加わり白熱したバトルを展開。

しかし、3周目に入ったマンダリンコーナー手前で都筑晶裕の Audi R8 LMSは突如マシン後方から激しく炎を上げスローダウン。残念ながらマシントラブルによりレースを終えることとなりました。同じく3周目のマンダリンコーナーでは Fordのフランク・ユー選手が時速260kmを超えるハイスピードでスピン、クラッシュを演じたのを皮切りに後続のマシンが多重クラッシュ。中でも Porscheのエディー・ヤウ選手は激しくクラッシュ。大破したマシンを映し出すサーキットモニターを前に、サーキット全体に緊張が走ったものの、自力でマシンから降りる姿が確認されると観客からは拍手が送られました。

結局レースは最後まで Audiエドアルド・モルタラ選手がトップの座を受け渡すことはなく優勝。2位には Lamborghini澤選手が入り、初参戦の Aston Martin藤井選手もしっかりと5位入賞を果たしています。

前週 ILMC珠海に続きマカオ GPでも結果を残すことができず、Hitotsuyama Racingは多くの課題を残し Audi R8 LMSでの初シーズンを終えることとなりました。

これら課題をオフシーズン間に解決し、2012年には更に強力な Hitotsuyama Racingをさらに多くのレースでファンの皆様にお見せすることをお約束致します。

2011年シーズンの Hitotsuyama Racingの活動を支えてくださった関係者様、ファンの皆様には改めて心よりお礼申し上げます。

2012年も変わらぬご支援、ご声援をお願い申し上げます。